

令和元年度(平成31年度)地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	祭り文化景観形成事業
事業主体 (連絡先)	木曾町日義地域自治協議会(木曾町役場日義支所内協議会事務局) (0264-26-2301)
事業区分	(3)教育、文化・スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,301,912円(うち支援金:1,725,000円)

事業内容

(1) 提灯の設置

・木曾義仲の里として多くの祭事を行っていたが、特に夜間は暗く発電機による投光器での明り取りで中山道街道の風情が無かったことから、和紙提灯、弓張提灯を設置し、長持ち行列の通行の灯り取りや祭り風情を高めた。8月14日の木曾義仲旗挙げ祭り、9月8日南宮神社例大祭、11月24日原野八幡宮秋祭りに合わせて、宮ノ越宿本陣に和紙提灯、原野宿、宮ノ越宿の中山道街道の暗い部分の必要な個所に既設のポール等を活用して弓張提灯200個を設置した。

・提灯の図柄は、木曾義仲・巴御前の物語をモチーフにした図柄で町内在住の画家にデザイン作画を依頼して作成した。



【長持ち行列と提灯】

【目標・ねらい】

- ①祭事への参画、入込客数等の増加
- ②地域文化の伝承と後継者育成
- ③地域住民参画による景観形成の意識向上

事業効果

①和紙提灯と弓張提灯の設置により、木曾義仲公にまつわる祭事をより引き立て、賑やかで風情ある中山道の街道景観の形成と魅力ある明るい祭事への催行により、帰省客、観光客の増加に繋がった。

②次世代を担う地域の小中学生や高校生の参画や地域住民の盛り上げにより「らっぽしょ行列」や「武者行列」「長持ち」など伝統文化の後継者育成と伝承が図られた。

③日義地域の中山道街道筋における祭り景観、街道景観の意識向上と住民協働による祭事運営や住民の居場所づくりが図られた。

今後の取り組み

- ・武将木曾義仲の旗挙げの地として、地域住民の協働参画をはじめ、更なる後継者育成に努め、今後も引き続き歴史文化の伝承のため祭り催事には提灯を掲げ、祭り景観や日本遺産の中山道宿場街道の景観を維持していく。
- ・木曾義仲・巴御前を主にしたNHK大河ドラマ化誘致に向けて今後も継続的に陳情や誘致活動を木曾義仲・巴広域連携推進会議他関係機関、全国のゆかりの地と共に積極的に行っていく。

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・前年度より祭事入込者数が19%増加した。
- ・木曾義仲公の歴史文化の伝承と次世代を担う小中高校生の参画による後継者育成が図られた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある